

富士市富士山火山防災マップ説明会における質問と回答

○噴火現象に関する質問

Q：溶岩流の到達まで長時間かかるのは、火口で溶岩が出続けているためか？

A：今回の避難計画の基となる富士山火山ハザードマップでは、大規模噴火の場合、火口から溶岩が2か月間にわたり流出し続ける想定となっており、その場合、市南部では、溶岩流の到達に最大57日かかることとされています。

Q：火口が複数になる可能性もあるのか？

A：過去の富士山噴火では、単一の火口からだけでなく、複数の火口が列状に並ぶ割れ目噴火が多く発生しており、複数の場所から同時に溶岩が噴出することも考えられます。

Q：噴火により山体崩壊は起らないのか？

A：富士山において過去に山体崩壊が起きたことは確かですが、それが火山活動によるものなのか、他の原因によるものなのかは明らかになっておりません。

Q：富士市内の観測拠点は何箇所か？

A：富士山周辺には、気象庁、国土地理院などが設置した地震計、監視カメラ、位置情報、傾斜計、空振計が約40箇所設置されており、そのうち市内には、市役所と勢子辻に国土交通省が設置した監視カメラがあります。

○避難に関する質問

Q：流下パターンEの場合、東部の住民が富士市西側に避難をするのは危険ではないか？沼津市側への広域避難についても検討してほしい。

A：現在、県や周辺市町との間で広域避難の協議を進めており、状況によって富士市より東側の市町へ避難することについても検討しています。

Q：私は噴火後避難となる町内会（区）に住んでいるが、避難の際の同報無線放送は、流下パターンごとに呼び掛けられるのか？それとも町内会（区）ごとか？

A：同報無線放送では、避難の対象となる町内会（区）名を知らせることとなっていますので、どの流下パターンに該当するかについては、放送しません。

Q：高齢者の避難先や方法は？

A：富士山噴火時の避難は自家用車によることが基本となります。近隣の方の車両に同乗するなどの対応をお願いしたいと考えております。

Q：避難時のゴーグルやマスクなど、どれくらいのものを準備したらよいか知りたい。

A：火山灰は非常に細かい粒子が含まれるため、可能であれば顔に密着する防塵マスクや防塵ゴーグルを準備することが望ましいです。準備がない場合は、水で濡らしたハンカチなどで口と鼻を覆い、灰をできるだけ吸い込まないようにすることが大切です。

Q：降灰や融雪型火山泥流から避難する場合に、近くに堅牢な避難場所がない場合はどうすればよいか？

A：噴火前に対象エリアの外側へ避難することを優先してください。万が一避難する前に噴火が発生した場合は、建物の2階以上へ垂直避難をするなど、少しでも命が助かる行動をお願いします。

Q：ウェブサイト上にある避難場所一覧の「火山現象」の欄は参考としてよいか？

A：火山現象からの避難場所は今後修正する予定となっております。

○その他

Q：防災ラジオが入らない範囲の解消法はあるか？

A：防災ラジオ（同報無線放送）の電波は、市役所屋上から送信しており、ご自宅の中でも市役所側の窓際等が比較的受信しやすくなります。それでも受信状況が悪い場合は、有償の外付けのアンテナを接続することにより解消する場合があります。外付けのアンテナについては、防災危機管理課で貸し出しを行っておりますので、ご利用ください。

Q：南海トラフ地震と富士山噴火の連動についてシミュレーションしているのか？

A：今回の富士山火山防災マップに掲載した避難計画では、南海トラフ地震との連動について考慮しておりません。

Q：噴火警戒レベル3で、学校は休校となると聞いている。気象庁の発表で自動的に休校になるのか、学校の判断により連絡されるのか？

A：噴火警戒レベル3の発表により、自動的に市内すべての学校等の児童関連施設を休校、閉鎖します。